編　修　趣　意　書

（教育基本法との対照表）

※受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
27-170	高等学校	地理歴史科	世界史Ａ	

※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教　科　書　名
183　第一	世Ａ317	高等学校　改訂版　世界史Ａ

１．編修の趣旨及び留意点

教科書を使う生徒が近現代史を中心とした世界史に興味・関心をもち，生徒が何のために世界史を学ぶのかを，この教科書を通して理解できるようにすること，そして，生徒が日常の生活感覚とのつながりで世界の歴史と現在を具体的に理解できるようにすることをねらいとした。また，調べたり考えたりする力や，適切に判断する力，自分の考えをまとめたり表現したりする力が身につくよう留意した。

２．編修の基本方針

本書は，教育基本法第２条に示す教育の目標を達成するために，下記のような基本方針に基づいて編修した。

①幅広い知識と教養を身につけさせるため，学習内容は基本的な事項を中心に精選し，平易で理解しやすい表現を心がけ，理解しにくい内容については注を付して丁寧に解説した。

②見開き完結の紙面構成で，見開きの冒頭にインパクトのある写真などをダイナミックに掲載することで，学習内容へのイメージをもたせるとともに，生徒が興味・関心をもって学習に入れるようにした。

③本文ページの冒頭に導入の問いかけを設けることで，生徒に学習の見通しを持たせ，主体的に学習に取り組むことができるようにした。また，本文ページの最後には「整理しよう」を設け，学習内容の定着をはかるとともに，より深い理解をめざした。

④地図や写真，絵画，風刺画，史料など諸資料を豊富に掲載することで，幅広い知識と教養を身につけさせるとともに，適宜「よみとき」を設けることで，生徒が主体性をもって，歴史を多角的に考察できるようにした。

⑤「モノから学ぶ世界史」と「テーマ」の２つの特集と，「クローズアップ」，「日本とのつながり」，「現在とのつながり」，「人物コラム」という４種類のコラムを設け，歴史に対する興味・関心を喚起するとともに，歴史を身近に感じ，現在とのつながりや諸地域のつながり，日本の歴史とのつながりが実感できるように配慮した。

⑥日本の歴史に関わる内容を随所でとりあげ，世界と日本との密接なつながりを把握させるとともに，世界史における日本の位置を客観的に把握できるよう配慮した。

⑦各地域の自然景観や作物・食生活などを随所で取り上げ，地理的条件と関連付けながら世界史を理解させるとともに，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。

３．対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界の地形 世界史への旅立ち 日本列島の歴史 世界史を学ぶみなさんへ	日本列島の歴史では，日本が世界の諸地域と密接な関係を持ちながら特色ある伝統と文化を形成してきたことについて，地図と写真を中心に解説し，我が国の伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した（第５号）。 世界史を学ぶみなさんへでは，世界史を学ぶ意味を述べ，真理を求める態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第１号・第５号）。	前見返し④⑤ p.1

巻頭特集 16 世紀以降の世界の概観	16 世紀以降の歴史について，各国が相互に密接な関係をもちながら歴史を発展させたこと，また一方で，列強による世界分割が進むなかで各地の伝統ある社会や文化が変容を迫られていったことを学ぶことにより，平等で平和的な国際関係を構築することの重要性に気づき，他国の伝統を尊重する態度を養えるよう留意した（第５号）。 世紀ごとに同時代の日本について取り上げることで，世界史における日本の位置を客観的に把握させるとともに，我が国の伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した（第５号）。	p.6〜17 p.6〜17
第１編 世界史へのいざない	古代より，人は海とかかわりながら歴史をはぐくんできたことを学ぶことにより，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した（第４号）。 鉄砲伝来を通して，日本と世界との関わりを理解させるとともに，歴史についての多角的な考察を促し，真理を求める態度を養えるよう留意した（第１号・第５号）。	p.20〜21 p.22〜23
第２編 世界の一体化と日本 第１章 ユーラシアの諸文明	ユーラシアの各地とアメリカ・アフリカに形成された諸文明の特質と歴史を大観させることで，幅広い知識と教養を身につけさせるとともに，他国の文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第１号・第５号）。 日本が古代よりアジアの国々と密接な関係をもちながら歴史を発展させてきたことを学ぶことにより，我が国の伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した（第５号）。 各地の自然景観や農業，食生活などを取り上げ，先人がその土地の自然環境を利用し共存しながら生活を営み，歴史を発展させてきたことを学ぶことにより，勤労を重んずる態度を養うとともに，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した（第２号・第４号）。 仏教，ヒンドゥー教，イスラーム，キリスト教といった各宗教の特質を丁寧に記述することにより，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第５号）。	p.24〜73 p.31,33,35,37 p.24,25,28,38,39,42,43,46,47,54,55,66〜69 p.40,41,50〜53,57,64,65
第２編 世界の一体化と日本 第２章 結びつく世界と近世の日本	ヨーロッパ人の進出の前提となったアジアの繁栄を丁寧に記述することで，ヨーロッパ中心の歴史の見方を相対化して歴史を多角的に考察させ，真理を求める態度を養えるよう留意した（第１号）。 16〜18 世紀における日本と世界との関係を丁寧に記述するとともに，世界遺産の石見銀山を取り上げることで，我が国の伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した（第５号）。 ヨーロッパによる「大航海時代」以降，世界の一体化が急速に進む一方でアメリカ大陸やアフリカ大陸では伝統的な社会や文化が変容を迫られたことを丁寧に記述することで，歴史を多角的に考察させ，真理を求める態度を養えるよう留意した（第１号）。 ルネサンスや宗教改革，社会契約の思想を学ぶことにより，個人の価値を尊重する態度を養うとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第２号・第３号）。	p.74〜109 p.74〜81,104,105,107,108 p.92〜95,107 p.96,97,109

第２編 世界の一体化と日本 第３章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	18 世紀後半から 19 世紀のヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成について，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 産業革命における技術革新とその影響を学ぶとともに，労働問題や環境破壊といった現在にもつながる諸問題が発生したこと，またその解決に向けた努力がなされたことを学ぶことにより，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第２号・第３号）。 アメリカ独立革命やフランス革命を経て，自由や平等を尊重する動きが各地に広まり，現在の民主社会の形成へとつながっていったことを丁寧に記述することで，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第３号）。	p.110～139 p.110～117 p.118～139
第２編 世界の一体化と日本 第４章 アジア諸国の変貌と近代の日本	18 世紀後半から 20 世紀初頭のアジア諸国の変貌と日本の動きについて，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 ヨーロッパによる植民地化が進む一方で，それへの抵抗や社会変革などアジアで展開された主体的な動きについて丁寧に記述し，歴史のより深い理解と多角的な考察を促すとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第１号・第５号）。	p.140～157 p.140～157
第３編 地球社会と日本 第１章 帝国主義の時代 第２章 急変する人類社会	帝国主義列強による世界分割が進む様相と，植民地の領有などをめぐる列強間の対立について，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 帝国主義列強による世界政策が進められるなか，アジア太平洋地域やアフリカが列強の植民地や勢力範囲とされたことを学ぶことにより，平等で平和的な国際関係の構築と他国の価値観や伝統を尊重することの重要性に気づくことができるよう留意した（第５号）。 大量生産・大量消費社会の出現や公教育の普及，マスメディアの発達など，19 世紀末から 20 世紀前半における社会の変化について，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 公教育やマスメディアが，時には政府により思想統一や国民動員に利用されたことを学ぶことにより，教育やマスメディアのあり方やそれに関わる問題を生徒自らが客観的に捉え直す契機となるよう配慮した（第２号）。 19 世紀後半から 20 世紀はじめにかけて世界各地で移民が進んだこと，移民は時には差別や迫害を受けながらも移民先社会に定着していったことを丁寧に記述し，自他の敬愛を重んずるとともに，他者と協力して工夫を重ねることの必要性に気づくことができるよう配慮した（第４号）。	p.158～165 p.158～165 p.166～171 p.167,171 p.168,169
第３編 地球社会と日本 第３章 世界戦争と平和	二つの世界大戦の原因と性格，その影響について，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 民主主義や人権が戦争や差別により侵害されたことを学ぶことにより，個人の価値，正義と責任，自他の敬愛を重んずるとともに，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第２号・第３号）。 戦争により多大な人命が犠牲となり，また環境破壊にもつながる兵器が使用されたことを学ぶことにより，生命を尊び自然を大切にするとともに，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第４号・第５号）。	p.172～195 p.172～195 p.172～195

第３編 　地球社会と日本 第４章 　三つの世界と日本の動向 第５章 　地球社会への歩みと課題	第二次世界大戦後の米ソを中心とした東西両陣営の対立と日本の動き，アジア・アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭について，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 　政治的独立を達成した第三世界の国々の中には，モノカルチャー経済から抜け出せず貧困に苦しんでいる国も多いことを丁寧に記述することにより，現在の国際社会における課題に気づかせ，平等で平和的な国際社会の発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第５号）。 　冷戦下で核開発や宇宙開発競争がおこなわれ，全面核戦争の危機まで生じたことを学ぶことにより，平和で安全な社会の形成に主体的に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第３号・第４号）。 　1970 年代以降の市場経済のグローバル化，冷戦の終結と地域的経済統合の進展，地球規模で深刻化する諸課題について，幅広い知識と教養を身につけ，多角的な考察ができるよう配慮した（第１号）。 　戦後の日本について，平和国家としての歩みを進めてきたこと，また高度経済成長期を経て経済大国となり，ＯＤＡなどを通じて国際貢献を果たしてきたことを学ぶことにより，国際社会で日本が果たすべき役割を主体的に考察させ，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第２号・第５号）。	p.196～211 p.203～205 p.206～208 p.212～227 p.199,209,211,226,227
第３編 　地球社会と日本 第６章 　持続可能な社会への展望	地域紛争や核兵器，地球環境問題に関する課題を考察するなかで，持続可能な社会の形成に主体的に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第３号）。 　冷戦終結後頻発している地域紛争の要因と事例，解決に向けた努力を丁寧に記述することにより，個人の生命や価値を尊び，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第２号・第５号）。 　第二次世界大戦後の核兵器開発競争と核保有をめぐる現在の状況，核廃絶に向けた取り組みを学ぶことにより，核廃絶のために何が必要かを主体的に考察し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第３号・第５号）。 　地球規模で発生している環境問題の事例と，地球温暖化防止に向けた国際的な取り組みを丁寧に記述することで，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養うとともに，地球環境問題の解決に向けさまざまな視点から考察できるよう配慮した（第４号）。	p.228～233 p.228,229 p.230,231 p.232,233

４．上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

・「人物コラム」ではさまざまな人物を取り上げ，人物のエピソードを通して，自主及び自律の精神を養えるよう留意した。
・世界遺産や絵画作品などを豊富に掲載することで，一般的な教養を高めるとともに，豊かな情操を培うことができるよう配慮した。
・テーマ「世界史のなかの女性」や本文記述・コラムなどにおいて，女性や奴隷，先住民などを積極的に扱い，個人の価値，正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。

編　修　趣　意　書

（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

※受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
27-170	高等学校	地理歴史科	世界史Ａ	

※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教　科　書　名
183　第一	世Ａ317	高等学校　改訂版　世界史Ａ

１．編修上特に意を用いた点や特色

１．近世以降の世界の一体化の過程を理解させるうえで，ヨーロッパ中心の歴史の見方を相対化し，非ヨーロッパ地域の主体性を打ち出すようにした。
・第２編第２章「結びつく世界と近世の日本」では，ヨーロッパ人の進出の前提となったアジアの繁栄をまず扱い，一体化のはじまりを理解しやすくするため，時代もモンゴル帝国解体後の 14～15 世紀から扱った。その際，海からの視点で広くアジアをとらえるようにした。
・第２編第２章「結びつく世界と近世の日本」における，世界の一体化の進展に伴うアフリカ・アメリカ社会の変容が理解しやすくなるように，また，この２つの地域がそれまで自立した世界であったことを理解できるように，第２編第１章「ユーラシアの諸文明」にアフリカとアメリカの節を設けた。なお，アフリカとアメリカがユーラシアに含まれないことは，目次に注記した。
・本文ページの右端に地域のツメを設け，学習している地域が明確になるようにした。
２．世界の一体化の展開を具体的なイメージをもって理解できるように，地球的規模での諸地域の相互連関を明らかにするグローバル・ヒストリーの視点を取り入れた。
・銀や綿織物，紅茶，砂糖，石油といった具体的なモノや，環境や疫病，多地域間のヒトや文化の交流(移動)，交通(船，鉄道)，科学技術，情報通信などに着目した特集ページやコラムを設け，日常生活とのつながりで，地域間のつながりや世界の一体化の展開が理解できるようにした。
・16 世紀以降の世紀ごとの概観をまとめた特集ページを巻頭に設け，世界が一体化に向かう過程を，時代を追って理解できるようにした。
３．日本の歴史にかかわる内容を随所に取り入れ，世界史と日本史の密接なつながりがわかるようにするとともに，世界史における日本の位置が客観的に把握できるようにした。
・巻頭に設けたテーマページ「日本列島の歴史」で，おおまかな日本の歴史を確認でき，世界史とのつながりを具体的なイメージをもって理解できるようにした。
・「日本とのつながり」をはじめとしたコラムでも，日本の歴史にかかわる題材を積極的に扱った。
・第２編第１章の１～５節の冒頭の地域ごとの年表や，本文右ページ下に設けた同時代の日本を示した帯で，日本の時代を確認できるようにした。
４．世界史と地理との関連性を重視し，生徒の地理的理解を高められるようにした。
・巻頭の①②で世界の地形と自然景観を，第１編第１章「自然環境と歴史」で世界の気候帯や海流などを，第２編第１章の１～７節の冒頭で地域ごとの地勢や自然景観，代表的な作物などを扱い，地理的条件と関連づけながら世界史を学べるようにした。
５．主体的な学習がおこなえるよう配慮し，言語活動を充実させた。
・本文ページの冒頭に導入の問いかけを設け，生徒に学習の見通しを持たせ，主体的な学習がおこなえるよう配慮した。また，本文ページの最後には「整理しよう」を設け，生徒自らが学習内容を整理できるようにした。
・写真や地図に適宜「よみとき」を設け，学習項目への興味・関心を喚起するとともに，生徒が主体性をもって，世界の歴史を多角的に考察できるようにした。
・第３編第６章の「持続可能な社会への展望」では，テーマごとに課題を設定し，生徒自身が調べ考えたことをまとめたり，話し合ったりする作業をおこなうことにより，言語活動に主体的に取り組むことができるようにした。

２．対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第１編　世界史へのいざない			
第１章　自然環境と歴史	(1)－ア		1
人と海とのかかわり		p.20～21	
第２章　日本列島のなかの世界の歴史	(1)－イ		1
鉄砲伝来の世界史		p.22～23	
第２編　世界の一体化と日本			
第１章　ユーラシアの諸文明	(2)－ア		
１節　東アジア		p.24～37	2
２節　南アジア		p.38～41	
３節　東南アジア		p.42～45	
４節　西アジア		p.46～53	2
５節　ヨーロッパ		p.54～65	
６節　アフリカ		p.66～67	1
７節　アメリカ		p.68～69	
８節　ユーラシアの海の交流		p.70～71	1
９節　ユーラシアの陸の交流		p.72～73	
第２章　結びつく世界と近世の日本	(2)－イ		
①14～15 世紀の東アジア		p.74～75	2
②14～15 世紀のアジアの海		p.76～77	
③16～17 世紀のアジアの海		p.78～81	2
④清と東アジア		p.82～85	
⑤内陸アジア・南アジア世界の再編		p.86～87	2
⑥オスマン帝国とサファヴィー朝		p.88～91	
⑦ヨーロッパの「大航海時代」		p.92～93	2
⑧アメリカ大陸の変容		p.94～95	
⑨ルネサンスと宗教改革		p.96～99	
⑩ヨーロッパ主権国家体制の成立		p.100～101	2
⑪17～18 世紀のヨーロッパ		p.102～105	
⑫世界商業の展開		p.106～107	1
⑬科学革命と啓蒙思想		p.108～109	
第３章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	(2)－ウ		
①農業社会から工業社会へ―産業革命		p.110～113	2
②労働運動と社会主義のはじまり		p.114～117	
③アメリカ独立革命		p.118～119	2
④フランス革命		p.120～121	
⑤イギリスに挑戦したナポレオン		p.122～123	

⑥大西洋をはさんだ革命	(2)－ウ	p.124～125	1
⑦ウィーン体制		p.126～127	
⑧イギリスの繁栄		p.128～129	2
⑨二月革命と第二帝政		p.130～131	
⑩イタリアとドイツの統一		p.132～133	
⑪ロシアの近代化とバルカン半島		p.134～135	2
⑫アメリカ合衆国の膨張		p.136～139	
第４章　アジア諸国の変貌と近代の日本	(2)－エ		
①世界市場の形成		p.140～141	1
②オスマン帝国の衰退と西アジア		p.142～143	
③南アジアの植民地化とインド帝国		p.144～145	1
④東南アジアの植民地化		p.146～147	
⑤清の動揺		p.148～149	2
⑥明治維新と東アジア		p.150～151	
⑦中国分割の危機と日本	(3)－イ	p.152～153	2
⑧アジア諸国の変革		p.154～157	
第３編　地球社会と日本			
第１章　帝国主義の時代	(3)－イ		
①帝国主義の時代		p.158～159	2
②列強の世界政策		p.160～161	
③アジア太平洋地域の分割とロシア		p.162～165	
第２章　急変する人類社会	(3)－ア		
大衆の登場と国民統合		p.166～171	1
第３章　世界戦争と平和	(3)－イ		
①第一次世界大戦		p.172～173	2
②ロシア革命と大戦の終結		p.174～175	
③ヴェルサイユ・ワシントン体制		p.176～177	2
④アメリカとヨーロッパ		p.178～179	
⑤東アジアの民族運動		p.180～181	2
⑥アジアの独立運動とラテンアメリカ		p.182～185	
⑦世界恐慌		p.186～187	2
⑧ファシズムの台頭		p.188～189	
⑨日本の軍国主義と中国		p.190～191	3
⑩第二次世界大戦の勃発		p.192～193	
⑪第二次世界大戦の終結		p.194～195	
第４章　三つの世界と日本の動向	(3)－ウ		
①戦後世界の出発		p.196～197	3
②戦後の東アジア		p.198～199	
③アジア諸国の独立		p.200～201	

④戦後の西アジア・アフリカ	(3)－ウ	p.202～203	2
⑤第三世界の台頭とラテンアメリカ		p.204～207	
⑥変容する冷戦		p.208～209	2
⑦中国の動揺とベトナム戦争		p.210～211	
第５章　地球社会への歩みと課題	(3)－エ		
①アメリカ合衆国の動揺		p.212～213	3
②東アジア・東南アジアの変容		p.214～215	
③西アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変容		p.216～219	
④冷戦の終結		p.220～221	3
⑤経済のグローバル化		p.222～223	
⑥冷戦後のアメリカと国際社会		p.224～225	
⑦21 世紀の世界と日本		p.226～227	
第６章　持続可能な社会への展望	(3)－オ		
①地域紛争と国際社会		p.228～229	1
②核兵器と人類の生存		p.230～231	1
③地球環境問題		p.232～233	1
		計	64